

第 I 章 調査の経緯

1 調査に至る経緯（図 1、2）

調査地は、弥生時代から中世の遺跡である松原遺跡にあたる。当地に宿泊施設建設が計画されたことを受け、工事に先立って淡路市教育委員会社会教育課により試掘調査が行われた。その結果、弥生時代や中世の遺構、遺物包含層が確認されたため、発掘調査を実施することとなった。発掘調査を実施するにあたって、淡路市教育委員会、開発原因者（ルーツ・サプライ株式会社・株式会社 APERA ADVISOR・株式会社 DRAWERS）、平安埋蔵文化財事務所株式会社の三者間で協定し、平安埋蔵文化財事務所株式会社から株式会社文化財サービスが調査を委託され、淡路市教育委員会社会教育課が主体となり、調査を行うこととした。

2 調査の経過

今回の調査では、調査対象地に調査区を 3 か所設けた。南から松原遺跡第 4 次調査区（3 トレンチ）、北側に近接して第 5 次調査区（2 トレンチ）、北西部に小規模な第 6 次調査区（1 トレンチ）とした。調査区は、2022 年 10 月 7 日にトータルステーションによって位置出しを行い、設定した。10 日に準備工を行い、11 日より現地作業に着手した。11、12 日に各トレンチの現代耕作土を重機掘削にて除去した。第 6 次調査区では、現代耕土直下にて地山層である黄褐色砂質土を確認したが、第 4、5 次調査区では中世の遺物包含層である暗褐色砂泥層を検出し、以降人力にて遺構成立面の精査及び遺構掘削作業を行った。暗褐色砂泥層上面ではピット群、土坑を検出し、これらの掘削作業及び記録作業を実施した後、中世遺物包含層の掘り下げを行った。第 4 次調査区では人力掘削によって当該層を除去し、その下より地山層を検出した。第 5 次調査区では重機掘削によって当該層の除去作業を行い、その直下にて弥生時代の遺物包含層である黒褐色粘質土を検出した。黒褐色粘質土上面では遺構密度が希薄で、ピット、土坑を数基のみ検出した。これらの遺構の掘削作業及び記録作業を実施した後、弥生時代遺物包含層の断割作業を行った。断割は第 5 次調査区の北壁、南壁際にて行い、土層断面の記録作業を実施した。27 日に撤収作業を行い、調査を終了した。

なお、写真撮影機材は、35 mmフルサイズの一眼レフデジタルカメラ、35 mm白黒フィルムおよびカラーリバーサルフィルムを使用し、図面作成には手測りによる実測、トータルステーションによる図化、写真測量を併用した。

3 測量基準点の設置（図 3）

測量基準点は、調査区周辺の既知点である T . 1、T . 2、T . 4 を用いたが、標高のみ VRS によって各既知点の測量を行った。成果は以下の通りである。

T . 1	X = -166,071.175 m	Y = 58,179.055 m	H = 77.234 m
T . 2	X = -166,028.107 m	Y = 58,198.516 m	H = 77.968 m

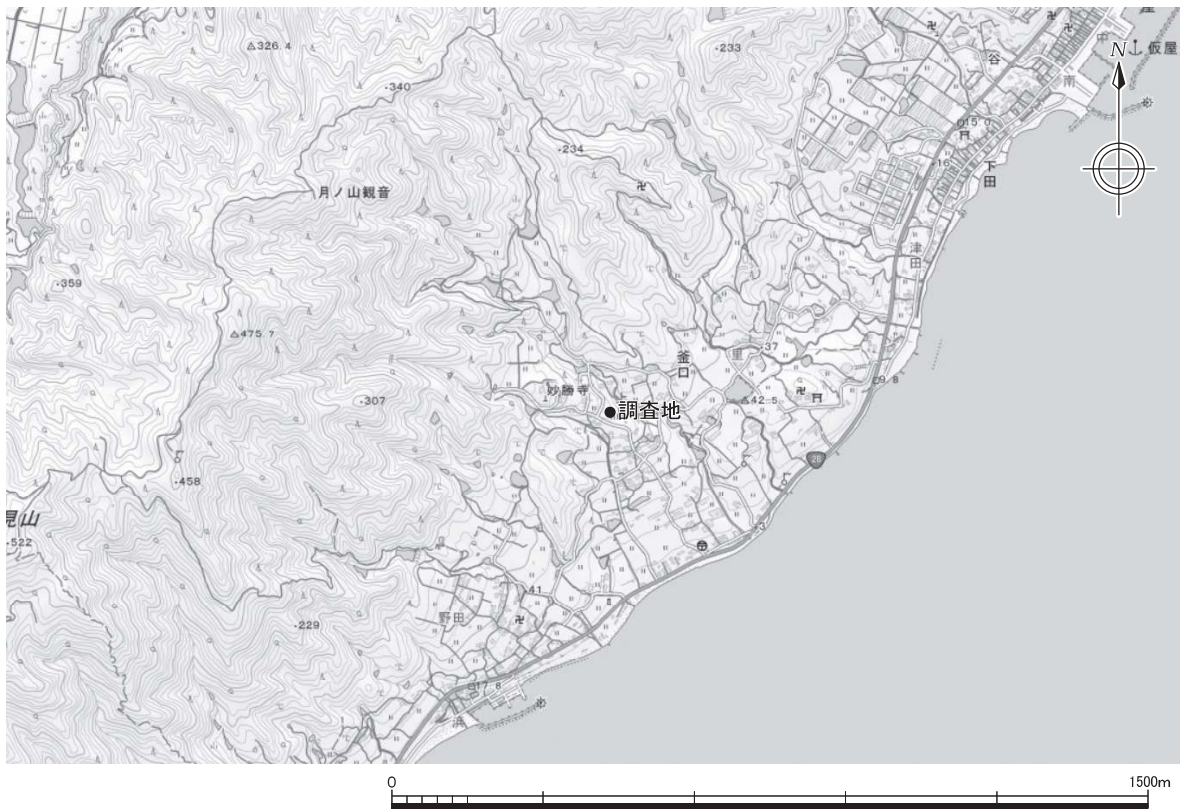


図1 調査地位置図 (1 : 15,000)

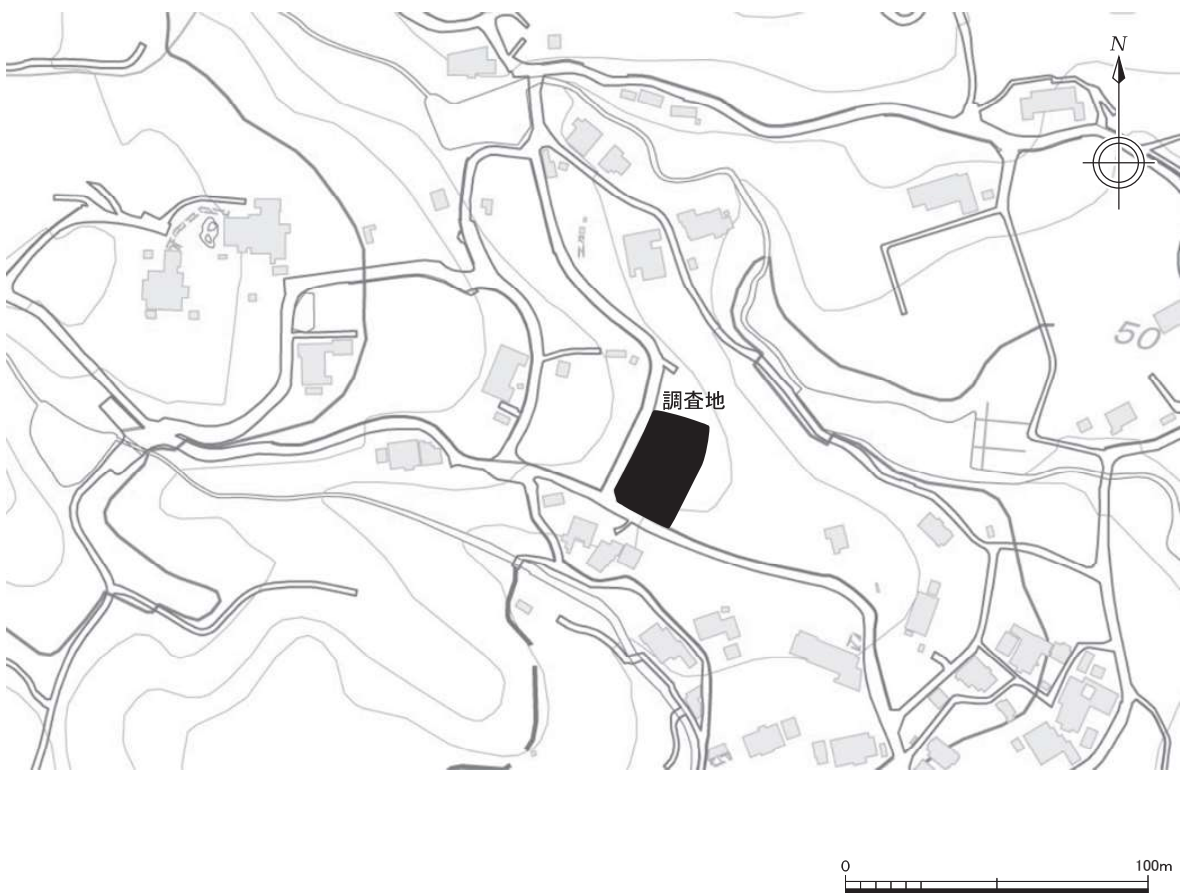


図2 調査地位置図2 (1 : 2,500)

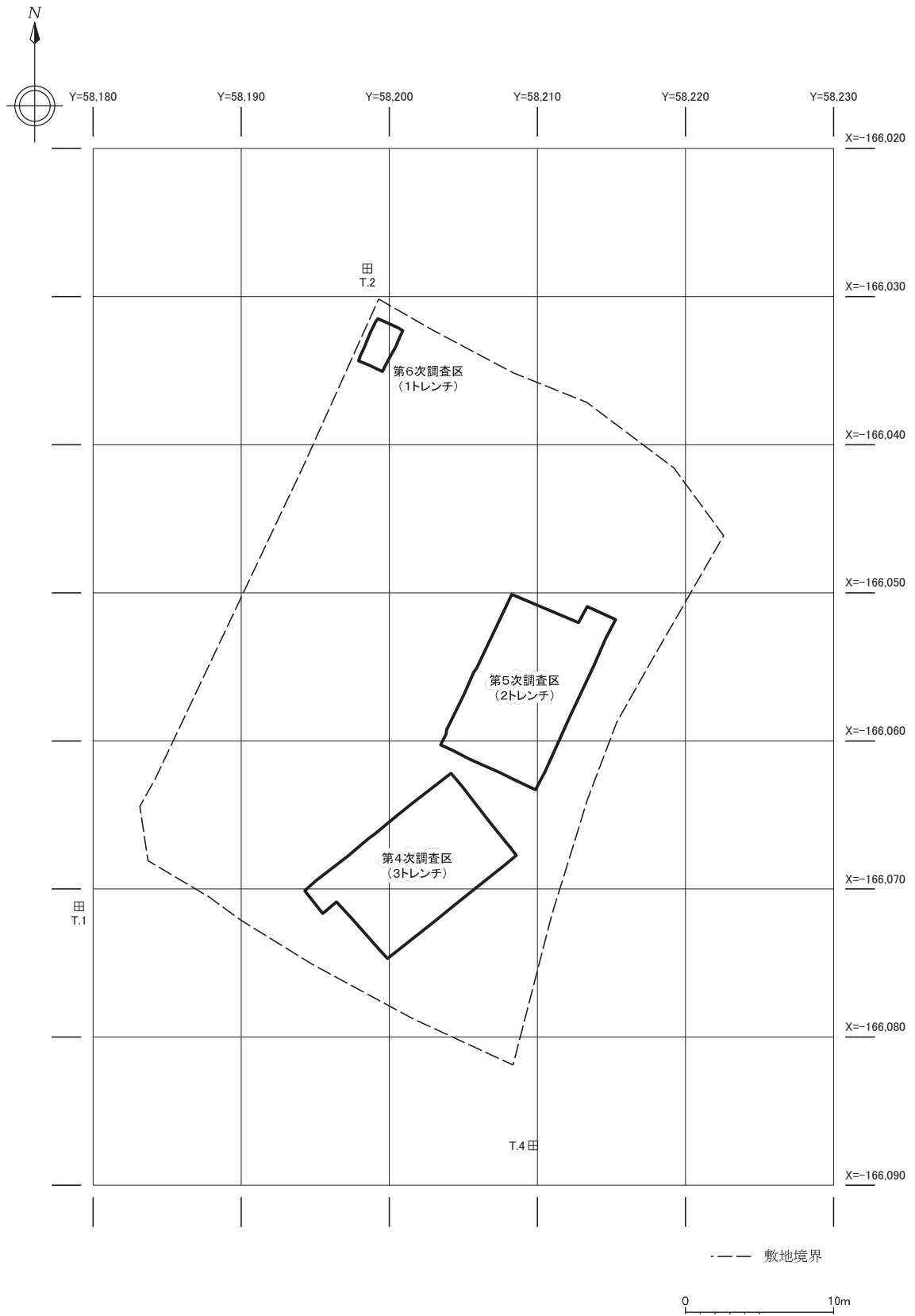


図3 基準点・調査区配置図 (1 : 400)

T . 4 X = -166,087.313 m Y = 58,209.725 m H = 72.036 m

4 整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業および報告書作成を行った。整理作業は写真、図面の整理と出土遺物の整理を並行して実施した。遺物の整理は洗浄、接合、実測、トレース、復元、写真撮影を行った。報告書の執筆は吉崎、編集作業は新田・中西が担当し、その他整理作業は当社社員が分担して行った。